

令和8年度支部事業についての意見交換

令和7年10月28日



全国健康保険協会 徳島支部
協会けんぽ

現状評価・課題・重点施策シートについて

1. 医療費情報（1人当たり医療費等）

【ポイント】

- ・1人当たり医療費の伸びは対前年比▲0.001とほぼ増減なし。
- ・入院の1人当たり医療費は微増、受診率・日数は微減だが単価の伸びが大きい。
- ・入院外の1人当たり医療費は減少、受診率の減少が要因。 ・全国比で受診率の入院が大きく乖離している。

支部基本情報 適用情報、医療費情報①

ユーザー名：20001004 閲覧日時：2025-09-29 10:58:32 データソース更新日：2025-07

表示支部

自支部のみ

統計年度

2024

支部

36-徳島支部

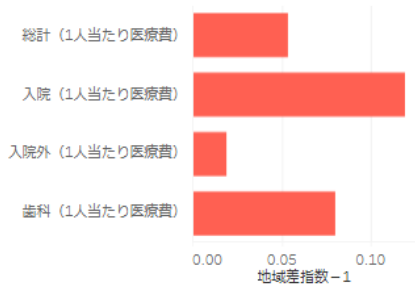
1. 適用情報

統計年度	事業所数（事業所）	加入者数（人）	被保険者数（人）	被扶養者数（人）	平均標準報酬月額（円）
2022	15,543	254,769	159,794	94,975	275,736
2023	15,768	251,519	159,694	91,825	280,304
2024	15,904	249,322	160,466	88,856	285,301

2-1. 医療費3要素（総計）

統計年度	1人当たり医療費（総計）	1人当たり医療費_年齢調整後（総計）	受診率（総計）	受診率_年齢調整後（総計）	1件当たり日数（総計）	1日当たり医療費（総計）
2022	216,562	212,791	9,052.41	8,949.12	1.5	15,650
2023	223,027	219,123	9,319.82	9,209.21	1.5	15,886
2024	222,768	218,876	9,321.66	9,211.76	1.5	16,075

1人当たり医療費の地域差指数 - 1



2-1. 医療費3要素（入院）

統計年度	1人当たり医療費（入院）	1人当たり医療費_年齢調整後（入院）	受診率（入院）	受診率_年齢調整後（入院）	1件当たり日数（入院）	1日当たり医療費（入院）
2022	59,202	57,741	105.46	103.61	9.9	56,458
2023	63,308	61,757	109.82	107.86	10.2	56,804
2024	64,846	63,368	108.67	106.89	10.1	59,188

受診率の地域差指数 - 1



2-1. 医療費3要素（入院外）

統計年度	1人当たり医療費（入院外）	1人当たり医療費_年齢調整後（入院外）	受診率（入院外）	受診率_年齢調整後（入院外）	1件当たり日数（入院外）	1日当たり医療費（入院外）
2022	132,966	130,863	7,083.30	6,998.57	1.4	13,547
2023	135,221	133,095	7,316.14	7,225.53	1.4	13,559
2024	132,338	130,163	7,260.97	7,171.91	1.4	13,526

2-1. 医療費3要素（歯科）

統計年度	1人当たり医療費（歯科）	1人当たり医療費_年齢調整後（歯科）	受診率（歯科）	受診率_年齢調整後（歯科）	1件当たり日数（歯科）	1日当たり医療費（歯科）
2022	24,393	24,186	1,863.65	1,846.94	1.6	8,203
2023	24,497	24,271	1,893.86	1,875.82	1.6	8,299
2024	25,583	25,345	1,952.03	1,932.96	1.5	8,590

※調剤に係る医療費については、処方元である入院外・歯科に含めています。

1. 医療費情報（診療種別_疾病分類別）

【ポイント】

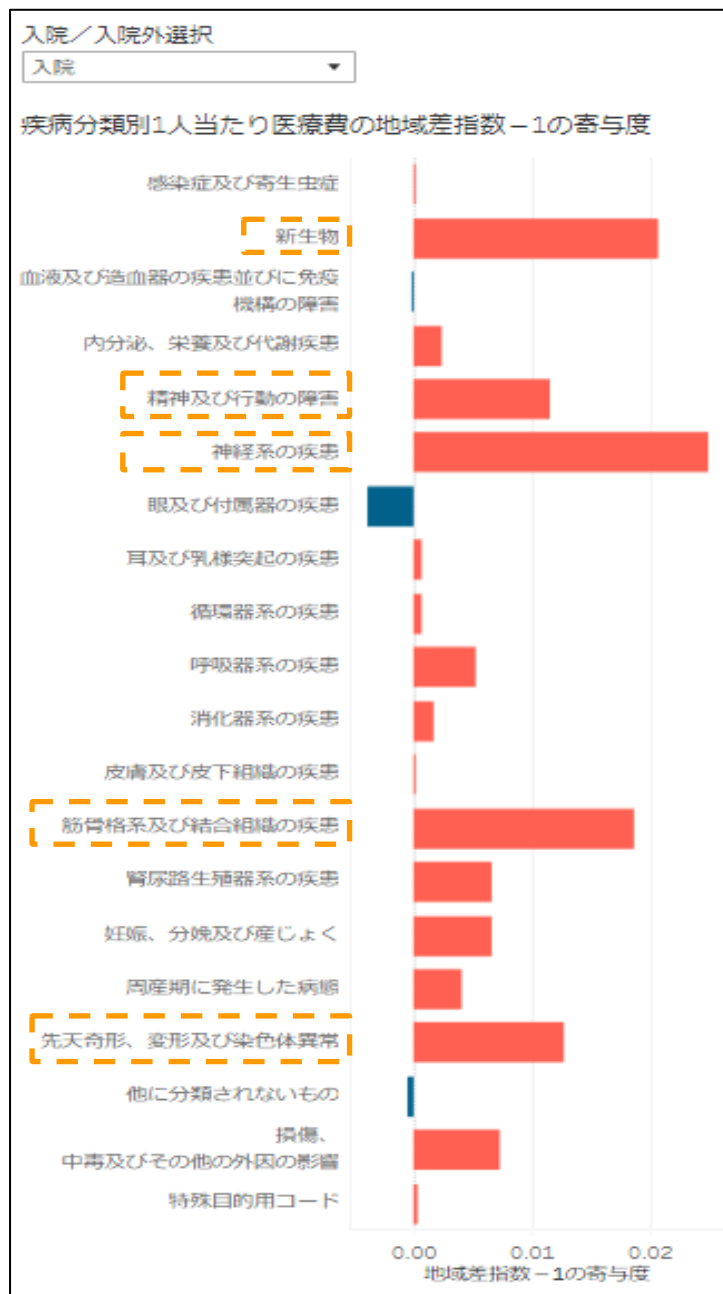
- ・**入院**は「新生物」が前年と比べ大きく寄与度が上昇している。「神経」も上昇傾向が続いており「筋骨格」「先天奇形」「精神」は過去からも高いまま推移している。
- ・**入院外**は「内分泌」「循環器」「精神」「消化器系」の寄与度が高く、過去からも高いまま推移している。

支所基本情報 医療費情報②		ユーザー名：20001004 閲覧日時									
表示支所											
自支所のみ											
統計年度		支所									
2024		36-徳島支所									
2-2. 疾病分類別1人当たり医療費の地域差指数－1の寄与度（入院）											
統計年度	感染症及び寄生虫症（入院）	新生物（入院）	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害（入院）	内分泌、栄養及び代謝疾患（入院）	精神及び行動の障害（入院）	神経系の疾患（入院）	眼及び付属器の疾患（入院）	耳及び乳突突起の疾患（入院）	循環器系の疾患（入院）	呼吸器系の疾患（入院）	
2022	0.001	-0.002	0.000	0.004	0.011	0.015	-0.005	0.000	0.000	0.002	
2023	0.002	0.007	0.000	0.004	0.018	0.020	-0.006	0.000	0.001	0.006	
2024	0.000	0.021	0.000	0.002	0.011	0.025	-0.004	0.001	0.001	0.005	
統計年度	消化器系の疾患（入院）	皮膚及び皮下組織の疾患（入院）	筋骨格系及び結合組織の疾患（入院）	腎尿路生殖器系の疾患（入院）	妊娠、分娩及び産じょく（入院）	周産期に発生した病態（入院）	先天奇形、変形及び染色体異常（入院）	他に分類されないもの（入院）	損傷、中毒及びその他の外因の影響（入院）	特殊目的用コード（入院）	
2022	-0.001	0.001	0.026	0.013	0.008	0.001	0.011	0.000	-0.001	-0.006	
2023	-0.002	0.002	0.021	0.008	0.007	0.002	0.017	0.002	0.013	0.002	
2024	0.002	0.000	0.019	0.007	0.007	0.004	0.013	-0.001	0.007	0.000	
2-2. 疾病分類別1人当たり医療費の地域差指数－1の寄与度（入院外）											
統計年度	感染症及び寄生虫症（入院外）	新生物（入院外）	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害（入院外）	内分泌、栄養及び代謝疾患（入院外）	精神及び行動の障害（入院外）	神経系の疾患（入院外）	眼及び付属器の疾患（入院外）	耳及び乳突突起の疾患（入院外）	循環器系の疾患（入院外）	呼吸器系の疾患（入院外）	
2022	0.002	-0.004	0.001	0.015	0.006	0.000	0.004	0.003	0.007	-0.002	
2023	0.003	-0.004	0.004	0.013	0.006	-0.003	0.005	0.003	0.006	0.006	
2024	0.001	-0.001	0.001	0.011	0.005	-0.003	0.004	0.003	0.004	0.001	
統計年度	消化器系の疾患（入院外）	皮膚及び皮下組織の疾患（入院外）	筋骨格系及び結合組織の疾患（入院外）	腎尿路生殖器系の疾患（入院外）	妊娠、分娩及び産じょく（入院外）	周産期に発生した病態（入院外）	先天奇形、変形及び染色体異常（入院外）	他に分類されないもの（入院外）	損傷、中毒及びその他の外因の影響（入院外）	特殊目的用コード（入院外）	
2022	0.002	-0.003	0.002	-0.007	0.001	0.002	0.001	0.000	-0.002	0.015	
2023	0.004	-0.002	0.001	-0.007	0.001	0.002	0.003	-0.001	-0.001	0.002	
2024	0.005	-0.003	-0.002	-0.008	0.001	0.003	0.004	-0.001	-0.002	0.001	
2-3. 時間外受診率の地域差指数－1											
統計年度	初診	再診									
2022	0.077	0.165									
2023	0.138	0.121									
2024	0.120	0.109									

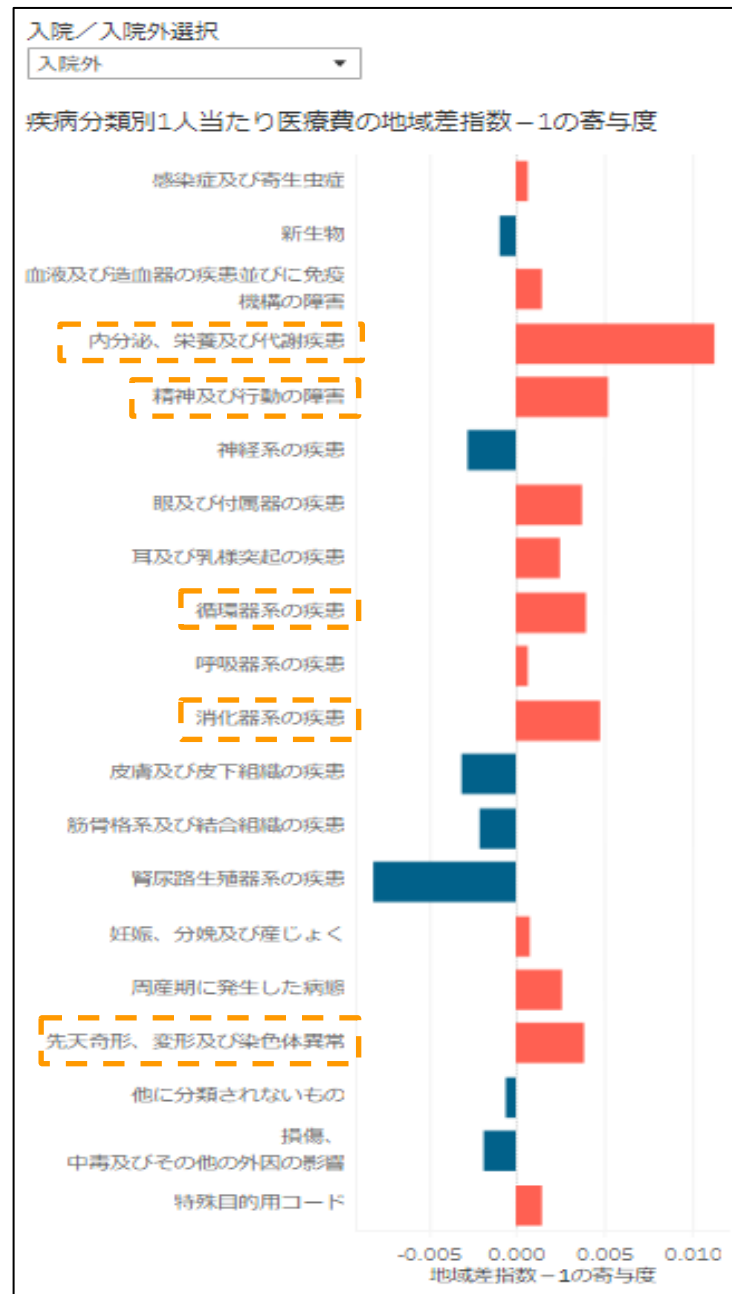
※調剤に係る医療費については、処方元である入院外・歯科に含めています。

1. 医療費情報（診療種別_疾病分類別）

(入院)



(入院外)

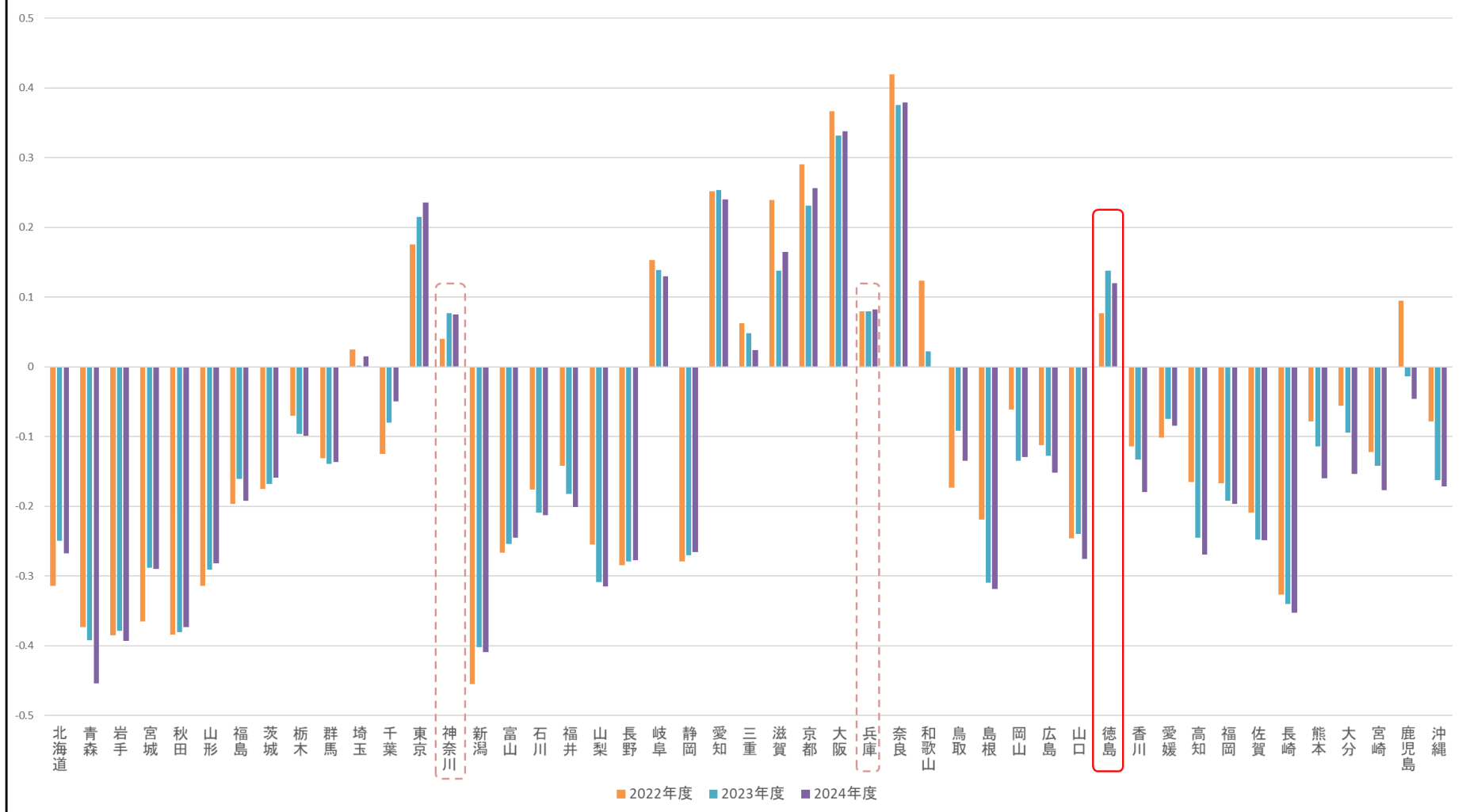


1. 医療費情報（時間外受診）

【ポイント】

- ・徳島より規模の大きな「神奈川」「兵庫」よりも高い。

時間外受診率の地域差指数－1（初診）

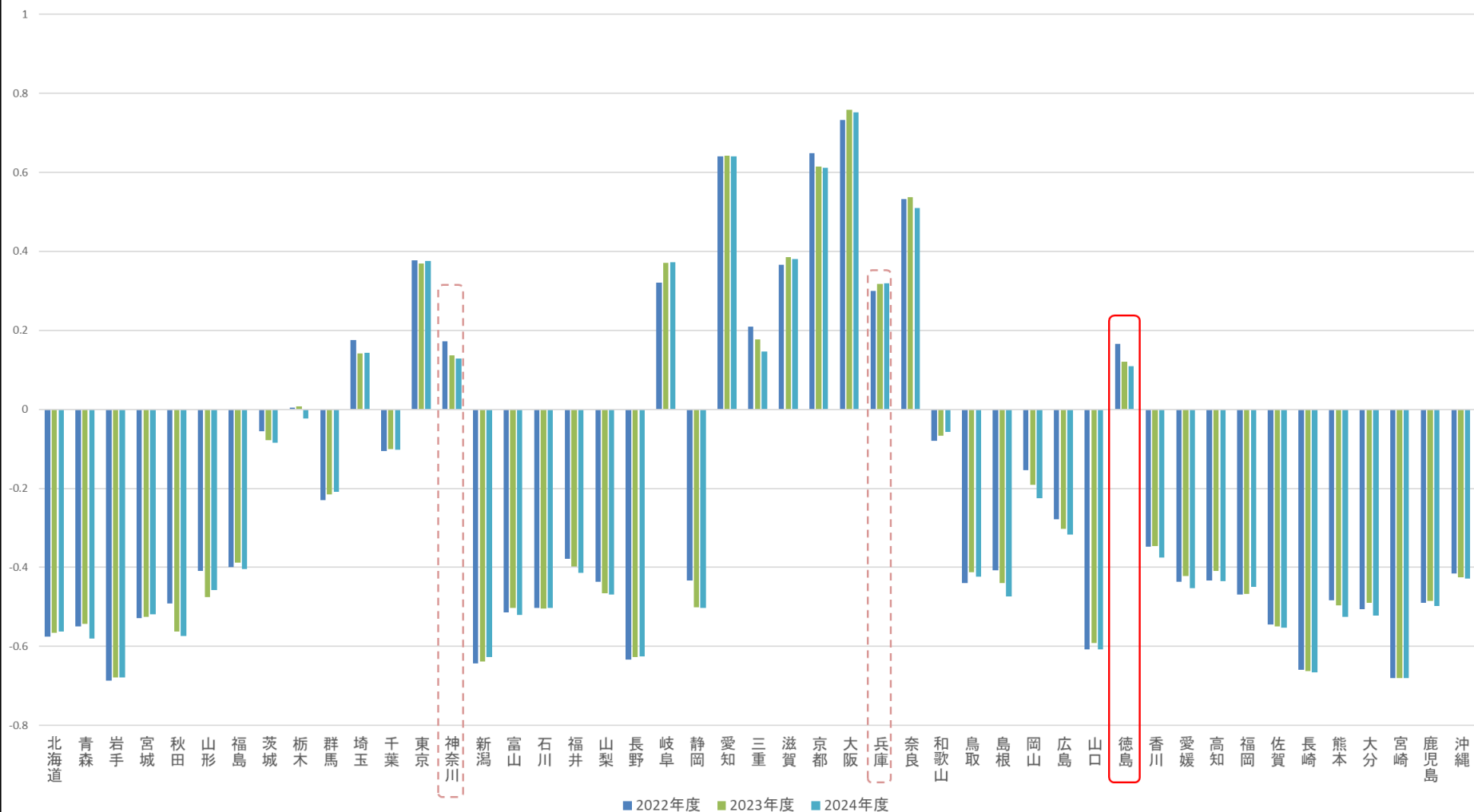


1. 医療費情報（時間外受診）

【ポイント】

- ・初診同様ではあるが、「神奈川」「兵庫」よりは低い。

時間外受診率の地域差指数－1（再診）

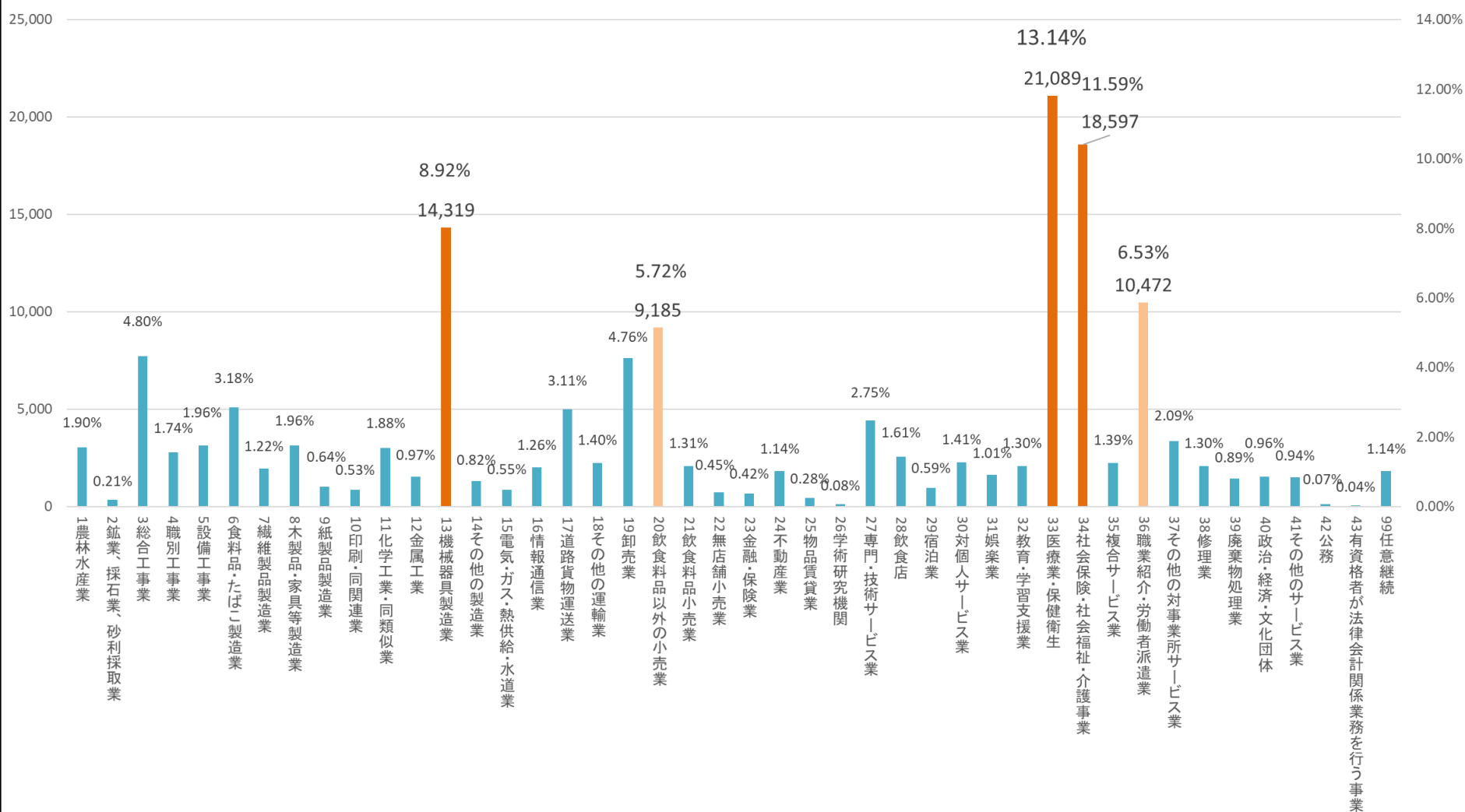


2. 加入者情報（被保険者）

【ポイント】

- ・被保険者数の多い順に、「33医療業・保健衛生」「34社会保険・社会福祉・介護事業」「13機械器具製造業」「36職業紹介 労働者派遣業」「20飲食料品以外の小売業」

令和6年度_業態別_被保険者数



3. 業態別の医療費情報（被保険者_入院）

【ポイント】

・前年同様に入院は「3総合工事業」「8木製品・家具等製造業」「13機械器具製造業」「33医療業・保健衛生」「34社会保険・社会福祉・介護事業」の寄与度が高いほか、「20食料品以外の小売業」が大幅に高くなっている。特に「33医療業・保健衛生」は突出して高止まりしている。

支部基本情報 医療費情報③

ユーザー名：20001004 閲覧日時：2025-09-29 13:20:22 データソース更新日：2025-07

表示支部
自支部のみ

統計年度 支部 入院/入院外選択

2024 36-徳島支部 入院

2-4.業態別1人当たり医療費の地域差指数-1の寄与度

統計年度	1農林水産業	2鉱業、採石業、砂利採取業	3総合工事業	4職別工事業	5設備工事業	6食料品・たばこ製造業	7繊維製品製造業	8木製品・家具等製造業	9紙製品製造業	10印刷・同関連業
2022	0.004	0.000	0.031	-0.016	-0.008	0.004	0.003	0.016	0.002	-0.003
2023	0.005	0.001	0.029	-0.018	-0.003	0.002	0.012	0.013	0.001	-0.001
2024	0.015	0.003	0.032	-0.017	-0.009	0.001	0.003	0.020	0.000	-0.003
統計年度	11化学工業・同類似業	12金属工業	13機械器具製造業	14その他の製造業	15電気・ガス・熱供給・水道業	16情報通信業	17道路貨物運送業	18その他の運輸業	19卸売業	20飲食料品以外の小売業
2022	0.005	-0.012	0.014	-0.005	0.003	-0.005	-0.009	-0.016	-0.001	0.001
2023	0.009	-0.006	0.011	-0.001	0.004	-0.007	-0.006	-0.013	-0.001	0.002
2024	0.000	-0.007	0.015	0.001	0.002	-0.007	-0.007	-0.016	0.002	0.016
統計年度	21飲食料品小売業	22無店舗小売業	23金融・保険業	24不動産業	25物品賃貸業	26学術研究機関	27専門・技術サービス業	28飲食店	29宿泊業	30対個人サービス業
2022	-0.008	0.001	-0.001	-0.014	-0.001	-0.002	-0.006	-0.006	-0.003	-0.003
2023	-0.008	0.002	0.002	-0.014	-0.001	-0.001	-0.011	-0.009	-0.005	-0.002
2024	-0.010	0.001	-0.001	-0.014	-0.003	-0.001	-0.004	-0.009	-0.003	-0.001
統計年度	31娯楽業	32教育・学習支援業	33医療業・保健衛生	34社会保険・社会福祉・介護事業	35複合サービス業	36職業紹介・労働者派遣業	37その他の対事業所サービス業	38修理業	39廃棄物処理業	40政治・経済・文化団体
2022	-0.001	0.002	0.061	0.006	0.004	0.001	-0.022	-0.001	0.002	0.003
2023	0.000	0.000	0.059	0.020	0.011	0.002	-0.023	0.009	0.004	0.005
2024	0.001	0.001	0.078	0.025	0.010	-0.001	-0.020	0.007	0.003	0.000
統計年度	41その他のサービス	42公務	43有資格者が法律・会計関係の業務を行う事業							
2022	0.001	0.005	0.000							
2023	-0.002	0.001	0.000							
2024	-0.005	0.000	0.000							

業態別1人当たり医療費の地域差指数-1の寄与度



※1 被保険者のみを集計対象としています。
※2 地域差指数は年齢調整後のものとなります。
※3 任意継続のもの及び業態が不明のものは掲載していないため、各業態の地域差指数-1の寄与度の合計は診療種別（入院・入院外）の被保険者1人当たり医療費の地域差指数-1の寄与度と一致しない場合があります。

3. 業態別の医療費情報（被保険者_入院外）

【ポイント】

・前年同様に入院外は「3総合工事業」「8木製品・家具等製造業」「13機械器具製造業」「33医療業・保健衛生」の寄与度が高い。特に「33医療業・保健衛生」は突出している。逆に「20食料品以外の小売業」は低くなっており、入院とは逆の傾向を示している。

支部基本情報 医療費情報③

ユーザー名：20001004 閲覧日時：2025-09-29 13:20:22 データソース更新日：2025-07

表示支部

自支部のみ

統計年度 支部 入院/入院外選択
2024 36-徳島支部 入院外

2-4.業態別1人当たり医療費の地域差指数-1の寄与度

統計年度	1農林水産業	2鉱業、採石業、 砂利採取業	3総合工事業	4職別工事業	5設備工事業	6食料品・ たばこ製造業	7繊維製品製造業	8木製品・ 家具等製造業	9紙製品製造業	10印刷・同関連業
2022	0.006	0.000	0.010	-0.012	-0.008	-0.001	0.004	0.012	0.001	-0.004
2023	0.006	0.001	0.013	-0.013	-0.008	-0.002	0.004	0.013	0.001	-0.004
2024	0.006	0.000	0.014	-0.013	-0.008	-0.002	0.004	0.012	0.001	-0.004
統計年度	11化学工業・ 同類似業	12金属工業	13機械器具製造業	14その他の製造業	15電気・ガス・ 熱供給・水道業	16情報通信業	17道路貨物運送業	18その他の運輸業	19卸売業	20飲食料品以外の 小売業
2022	0.001	-0.010	0.016	-0.004	0.002	-0.007	-0.010	-0.013	-0.001	0.001
2023	0.001	-0.010	0.022	-0.005	0.002	-0.009	-0.010	-0.012	-0.002	0.000
2024	0.000	-0.009	0.024	-0.005	0.002	-0.009	-0.010	-0.012	-0.003	-0.003
統計年度	21飲食料品小売業	22無店舗小売業	23金融・保険業	24不動産業	25物品賃貸業	26学術研究機関	27専門・ 技術サービス業	28飲食店	29宿泊業	30対個人サービス業
2022	-0.008	0.000	-0.001	-0.013	-0.002	-0.002	-0.015	-0.005	-0.003	-0.002
2023	-0.009	0.000	-0.002	-0.014	-0.003	-0.001	-0.017	-0.006	-0.004	-0.003
2024	-0.010	0.000	-0.002	-0.014	-0.002	-0.001	-0.019	-0.009	-0.003	-0.004
統計年度	31娯楽業	32教育・ 学習支援業	33医療業・ 保健衛生	34社会保険・ 社会福祉・介護事業	35複合サービス業	36職業紹介・ 労働者派遣業	37その他の対事業所 サービス業	38修理業	39廃棄物処理業	40政治・経済・ 文化団体
2022	-0.002	0.003	0.062	0.006	0.009	0.002	-0.016	0.003	0.001	0.002
2023	-0.002	0.000	0.062	0.007	0.011	0.001	-0.014	0.003	0.002	0.003
2024	-0.002	0.000	0.061	0.004	0.010	-0.001	-0.012	0.003	0.003	0.003
統計年度	41その他のサービス	42公務	43有資格者が法律・ 会計関係の業務を行 う事業							
2022	-0.003	0.004	0.000							
2023	-0.004	0.000	0.000							
2024	-0.005	0.000	0.000							

業態別1人当たり医療費の地域差指数-1の寄与度



※1 被保険者のみを集計対象としています。

※2 地域差指数は年齢調整後のものとなります。

※3 任意継続のもの及び業態が不明のものは掲載していません。各業態の地域差指数-1の寄与度の合計は診療種別（入院・入院外）の被保険者1人当たり医療費の地域差指数-1の寄与度と一致しない場合があります。

4. 健診情報

【ポイント】

- ・「BMIリスク保有率」「HDLコレステロール」「運動習慣改善要素保有率」「睡眠で休養が取れていない者」の割合が高い。
- ・「メタボリックシンドロームリスク保有率」「喫煙者の割合」「過去喫煙者」の割合が低い。

支部基本情報 健診情報①

ユーザー名： 20001004 閲覧日時： 2025-09-29 13:20:22 データソース更新日： 2025-07

表示支部

自支部のみ

統計年度

2024

支部

36-徳島支部

3-1. 健診受診率等

統計年度	生活習慣病予防健診受診率	事業所健診受診率	特定健診受診率	特定保健指導実施率	勤務後3か月以内受診率	コラボヘルス宣言事業所数
2022	52.5%	10.8%	27.9%	25.3%	13.6%	586
2023	54.5%	9.9%	27.3%	26.0%	13.6%	692
2024	55.1%	7.8%	27.7%	27.5%	6.5%	898

3-2. 健診結果及び問診結果

健診結果及び問診結果の地域差指数 - 1

統計年度	メタボリックシンドローム リスク保有率	メタボリックシンドローム リスク保有率 地域差指数 - 1	メタボリックリスク予備群 割合	メタボリックリスク予備群 割合 地域差指数 - 1	腹囲のリスク保有率	腹囲のリスク保有率 地域差指数 - 1	血圧のリスク保有率	血圧のリスク保有率 地域差指数 - 1
2022	14.5%	-0.075	12.0%	-0.048	34.0%	-0.031	44.0%	-0.043
2023	14.6%	-0.077	12.5%	-0.016	34.4%	-0.023	44.5%	-0.038
2024	15.1%	-0.059	12.6%	-0.020	35.0%	-0.019	45.3%	-0.025
統計年度	脂質のリスク保有率	脂質のリスク保有率 地域差指数 - 1	代謝のリスク保有率	代謝のリスク保有率 地域差指数 - 1	BMIのリスク保有率	BMIのリスク保有率 地域差指数 - 1	中性脂肪のリスク保有率	中性脂肪のリスク保有率 地域差指数 - 1
2022	27.9%	-0.026	16.2%	0.036	32.4%	0.041	19.2%	0.007
2023	28.4%	-0.016	15.7%	0.006	32.7%	0.048	19.2%	0.012
2024	28.3%	-0.020	16.0%	0.023	33.1%	0.036	18.3%	-0.012
統計年度	HDLコレステロールの リスク保有率	HDLコレステロールの リスク保有率 地域差指数 - 1	喫煙者の割合	喫煙者の割合 地域差指数 - 1	過去喫煙者の割合	過去喫煙者の割合 地域差指数 - 1	体重10kg以上増加者の 割合	体重10kg以上増加者の 割合 地域差指数 - 1
2022	4.0%	-0.023	23.3%	-0.161	0.0%	0.000	41.0%	0.001
2023	4.2%	0.022	24.1%	-0.134	0.0%	0.000	41.4%	0.002
2024	4.2%	0.060	24.5%	-0.109	14.1%	-0.141	42.9%	0.017
統計年度	運動習慣改善要素保有者 の割合	運動習慣改善要素保有者 の割合 地域差指数 - 1	食事習慣改善要素保有者 の割合	食事習慣改善要素保有者 の割合 地域差指数 - 1	飲酒習慣改善要素保有者 の割合	飲酒習慣改善要素保有者 の割合 地域差指数 - 1	睡眠で休養が取れていない 者の割合	睡眠で休養が取れていない 者の割合 地域差指数 - 1
2022	70.1%	0.032	52.1%	-0.002	12.9%	0.060	37.8%	0.016
2023	69.8%	0.041	52.4%	-0.006	12.9%	0.046	39.2%	0.018
2024	68.8%	0.045	52.5%	-0.007	0.0%	0.000	40.3%	0.030



※ 現在、2024年度以降の飲酒習慣改善要素保有者の割合、飲酒習慣改善要素保有者の割合 地域差指数 - 1は判定方法が未確定のため、集計対象としていません。判定方法が確定次第、集計対象となります。

4. 健診情報（血圧リスク）

【ポイント】

・「33医療業・保健衛生」が突出しており、次いで「8木製品・家具等製造業」「13機械器具製造業」「34社会保険・社会福祉・介護事業」の寄与度が高い。

支部基本情報 健診情報②

ユーザー名：20001004 閲覧日時：2025-09-29 13:20:22

データソース更新日：2025-07

表示支部

自支部のみ

統計年度

2024

支部

36-徳島支部

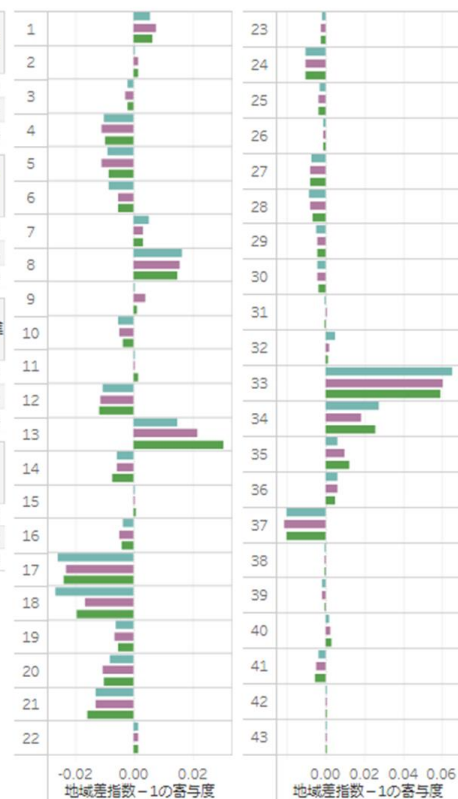
リスク・要改善区分

血圧のリスク保有率の寄与...

3-3.業態別リスク保有率の地域差指数-1の寄与度

業態別リスク保有率の地域差指数-1の寄与度

統計年度	1農林水産業	2鉱業、採石業、 砂利採取業	3総合工事業	4職別工事業	5設備工事業	6食料品・ たばこ製造業	7繊維製品製造業	8木製品・ 家具等製造業	9紙製品製造業	10印刷・同関連業
2022	0.005	0.000	-0.002	-0.010	-0.009	-0.009	0.009	0.016	0.000	-0.006
2023	0.007	0.001	-0.003	-0.011	-0.011	-0.006	0.009	0.016	0.004	-0.005
2024	0.006	0.002	-0.002	-0.010	-0.009	-0.005	0.005	0.015	0.001	-0.004
統計年度	11化学工業・ 同類似業	12金属工業	13機械器具製造業	14その他の製造業	15電気・ガス・ 熱供給・水道業	16情報通信業	17道路貨物運送業	18その他の運輸業	19卸売業	20飲食料品以外の 小売業
2022	0.000	-0.011	0.015	-0.006	0.000	-0.004	-0.026	-0.027	-0.006	-0.008
2023	0.000	-0.011	0.022	-0.006	0.000	-0.005	-0.023	-0.017	-0.007	-0.011
2024	0.001	-0.012	0.031	-0.008	0.000	-0.004	-0.024	-0.020	-0.006	-0.010
統計年度	21飲食料品小売業	22無店舗小売業	23金融・保険業	24不動産業	25物品賃貸業	26学術研究機関	27専門・ 技術サービス業	28飲食店	29宿泊業	30対個人サービス業
2022	-0.013	0.002	-0.002	-0.010	-0.003	-0.001	-0.007	-0.008	-0.005	-0.005
2023	-0.013	0.002	-0.002	-0.011	-0.004	-0.001	-0.008	-0.008	-0.005	-0.005
2024	-0.016	0.002	-0.003	-0.011	-0.004	-0.001	-0.008	-0.007	-0.005	-0.004
統計年度	31娯楽業	32教育・ 学習支援業	33医療業・ 保健衛生	34社会保険・ 社会福祉・介護事業	35複合サービス業	36職業紹介・ 労働者派遣業	37その他の対事業所 サービス業	38修理業	39廃棄物処理業	40政治・経済・ 文化団体
2022	-0.001	0.005	0.065	0.027	0.006	0.006	-0.021	-0.001	-0.002	0.002
2023	0.000	0.002	0.061	0.018	0.010	0.006	-0.021	-0.001	-0.002	0.002
2024	-0.001	0.001	0.059	0.025	0.012	0.005	-0.020	-0.001	-0.001	0.003
統計年度	41その他のサービス	42公務	43有資格者が法律・ 会計関係の業務を行 う事業							
2022	-0.004	0.001	0.000							
2023	-0.005	0.000	0.000							
2024	-0.006	0.000	0.000							



※1 生活習慣病予防健診結果及び事業者健診結果の健診結果及び問診結果を集計対象としています。

※2 地域差指数は年齢調整後のものとなります。

※3 任意継続のもの及び業態が不明のものは掲載していないため、各業態の地域差指数-1の寄与度の合計は各リスク保有率の地域差指数-1の寄与度に一致しない場合があります。

※4 現在、2024年度以降の飲酒習慣要改善要素保有者の割合の寄与度は判定方法が未確定のため、集計対象としていません。判定方法が確定次第、集計対象となります。

4. 健診情報（代謝リスク）

【ポイント】

・「13機械器具製造業」「33医療業・保健衛生」が突出しており、次いで「8木製品・家具等製造業」「34社会保険・社会福祉・介護事業」の寄与度が高い。

支部基本情報 健診情報②

ユーザー名：20001004 閲覧日時：2025-09-29 13:20:22 データソース更新日：2025-07

表示支部

自支部のみ

統計年度

2024

支部

35-徳島支部

リスク・要改善区分

代謝のリスク保有率の寄与...

3-3.業態別リスク保有率の地域差指数-1の寄与度

業態別リスク保有率の地域差指数-1の寄与度

統計年度	1農林水産業	2鉱業、採石業、 砂利採取業	3総合工事業	4職別工事業	5設備工事業	6食料品・ たばこ製造業	7繊維製品製造業	8木製品・ 家具等製造業	9紙製品製造業	10印刷・問屋業
2022	0.007	0.001	0.001	-0.008	-0.008	-0.007	0.004	0.017	0.001	-0.004
2023	0.006	0.001	-0.002	-0.010	-0.008	-0.004	0.003	0.016	0.001	-0.004
2024	0.007	0.002	-0.005	-0.009	-0.006	-0.003	0.003	0.015	0.001	-0.004
統計年度	11化学工業・ 同類似業	12金属工業	13機械器具製造業	14その他の製造業	15電気・ガス・ 熱供給・水道業	16情報通信業	17道路貨物運送業	18その他の運輸業	19卸売業	20飲食料品以外の 小売業
2022	0.002	-0.007	0.031	-0.005	0.000	-0.002	-0.017	-0.030	0.004	-0.003
2023	0.000	-0.008	0.030	-0.005	-0.001	-0.004	-0.019	-0.022	0.001	-0.005
2024	0.004	-0.010	0.038	-0.006	0.000	-0.003	-0.019	-0.023	0.000	0.001
統計年度	21飲食料品小売業	22無店舗小売業	23金融・保険業	24不動産業	25物品賃貸業	26学術研究機関	27専門・ 技術サービス業	28飲食店	29宿泊業	30対個人サービス業
2022	-0.010	0.003	-0.002	-0.010	-0.003	-0.001	0.001	-0.009	-0.004	-0.003
2023	-0.011	0.003	-0.002	-0.010	-0.004	-0.001	-0.004	-0.009	-0.005	-0.002
2024	-0.013	0.002	-0.002	-0.011	-0.003	-0.001	-0.004	-0.008	-0.005	-0.002
統計年度	31娯楽業	32教育・ 学習支援業	33医療業・ 保健衛生	34社会保険・ 社会福祉・介護事業	35複合サービス業	36職業紹介・ 労働者派遣業	37その他の対事業所 サービス業	38修理業	39廃棄物処理業	40政治・経済・ 文化団体
2022	0.001	0.006	0.057	0.020	0.010	0.011	-0.019	0.001	-0.001	0.004
2023	0.001	0.004	0.055	0.011	0.012	0.010	-0.020	0.001	-0.001	0.003
2024	0.001	0.004	0.049	0.018	0.013	0.009	-0.020	0.001	0.000	0.005
統計年度	41その他のサービス	42公務	43有資格者が法律・ 会計関係の業務を行 う事業							
2022	0.000	0.004	0.000							
2023	-0.002	-0.001	0.000							
2024	-0.003	0.000	0.000							



※1 生活習慣病予防健診結果及び事業者健診結果の健診結果及び問診結果を集計対象としています。

※2 地域差指数は年齢調整後のものとなります。

※3 任意継続のもの及び業態が不明のものは掲載していないため、各業態の地域差指数-1の寄与度の合計は各リスク保有率の地域差指数-1の寄与度と一致しない場合があります。

※4 現在、2024年度以降の飲酒習慣要改善要素保有者の割合の寄与度は判定方法が未確定のため、集計対象としていません。判定方法が確定次第、集計対象となります。

5. 市町村別地域差指数

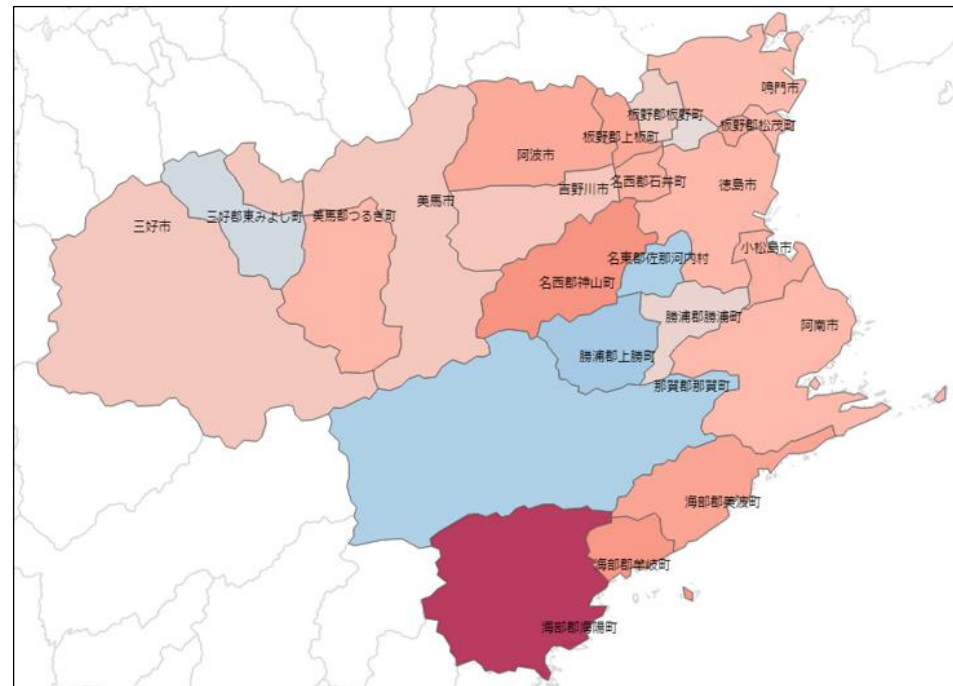
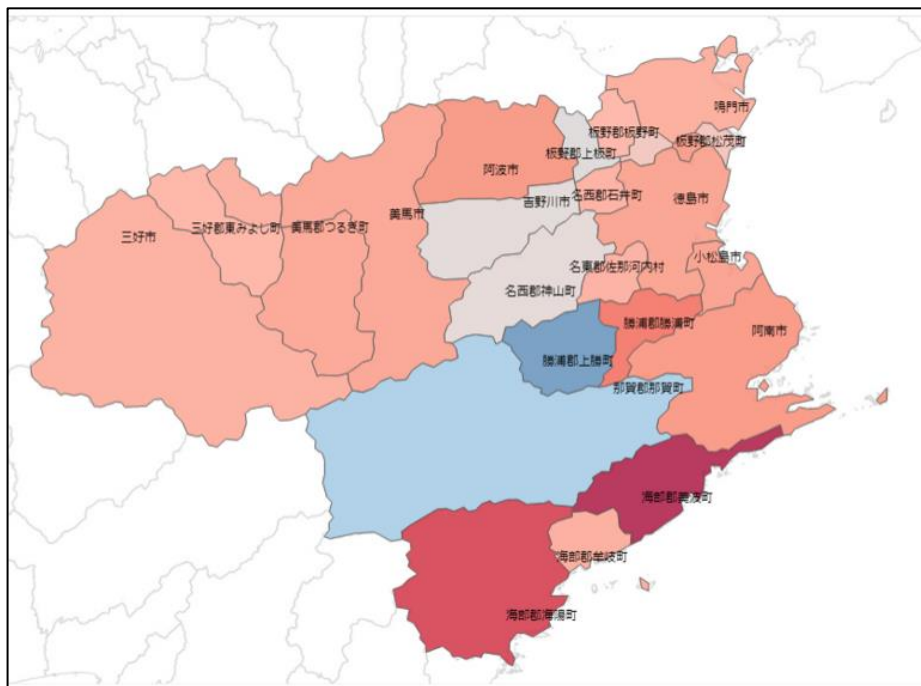
【ポイント】

- ・2023年度と傾向は変わらないが、地域差指数の差は狭まっている。

1人当たり医療費の地域差指数（総計）

（2024年）

（2023年）



5. 市町村別地域差指数

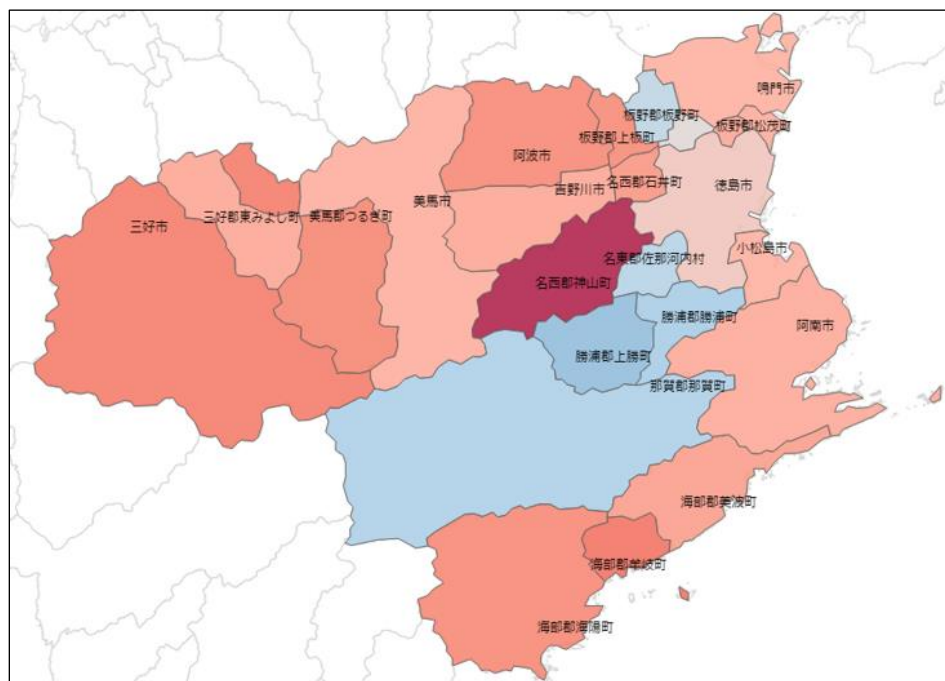
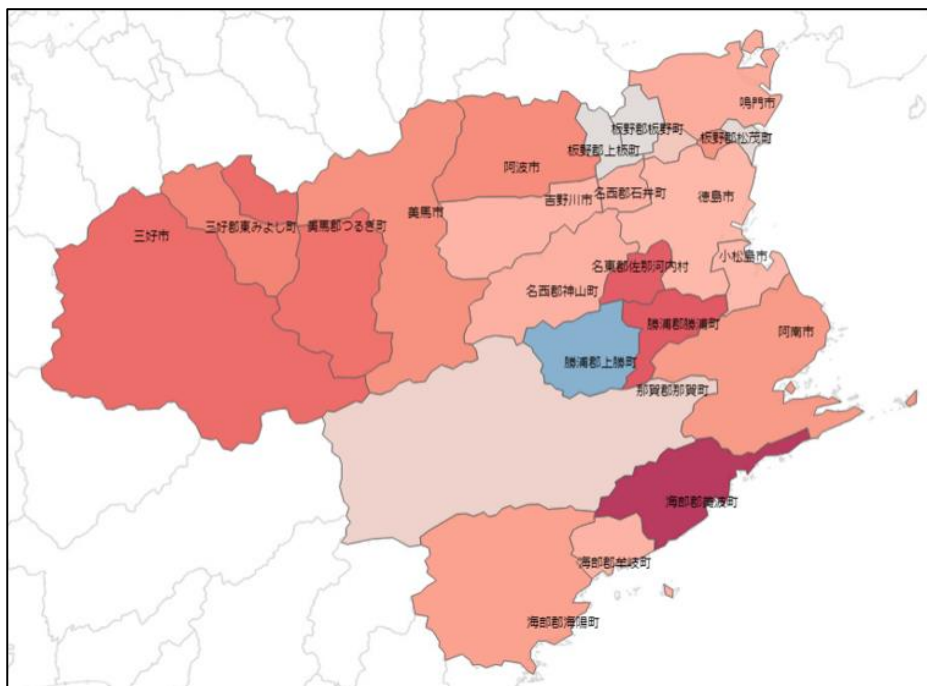
【ポイント】

- ・2023年度と傾向は変わらない（西部医療圏が高い）が、県全体として上昇傾向にある。

1人当たり医療費の地域差指数（入院）

（2024年）

（2023年）



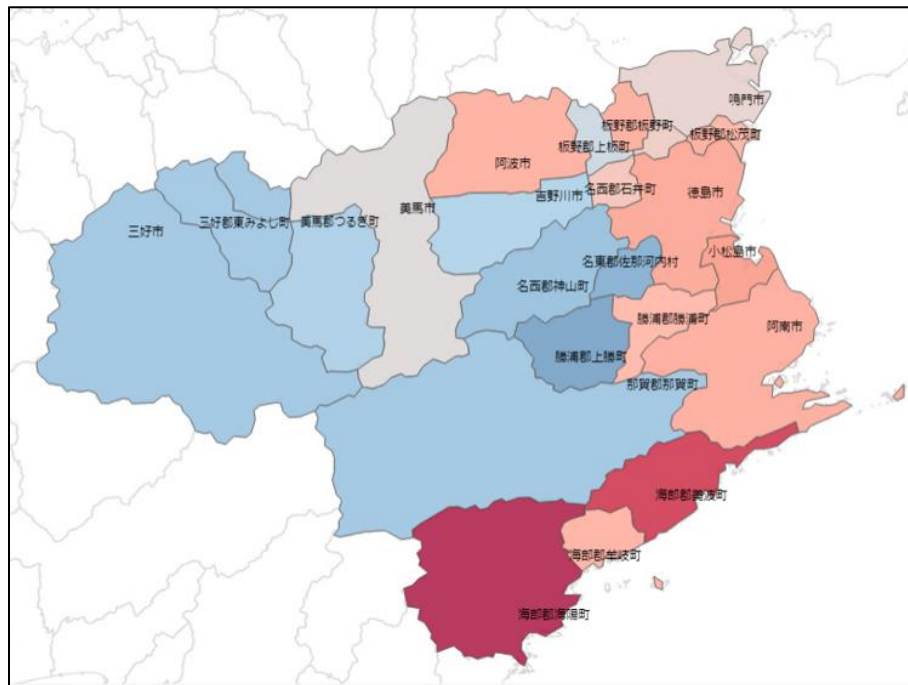
5. 市町村別地域差指数

【ポイント】

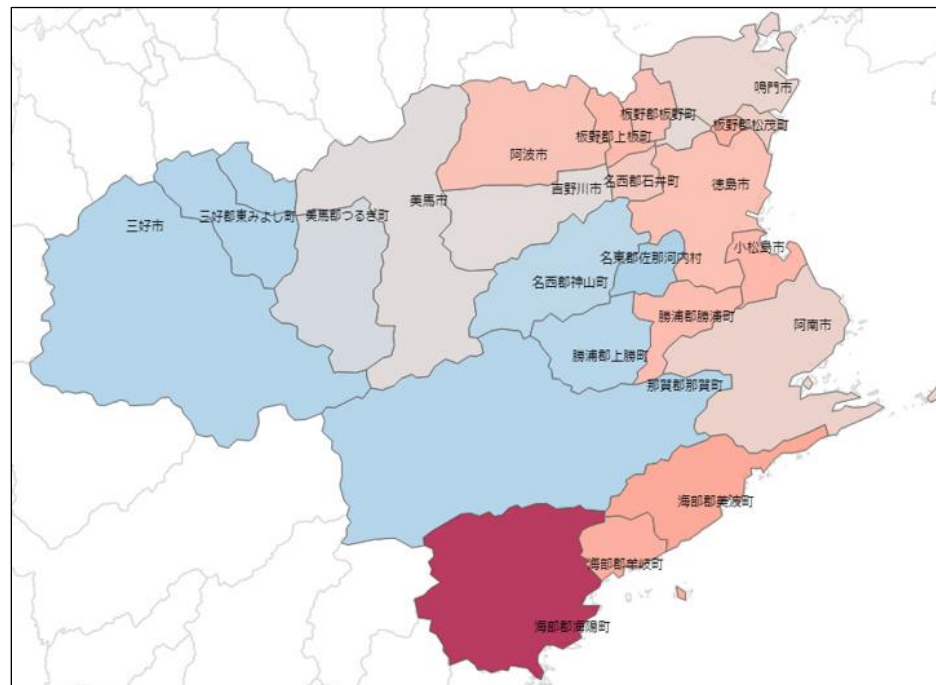
- ・2023年度と傾向（東部医療圏が高い）は変わらないが、全般的に指数が高くなっている。

1人当たり医療費の地域差指数（入院外）

（2024年）



（2023年）



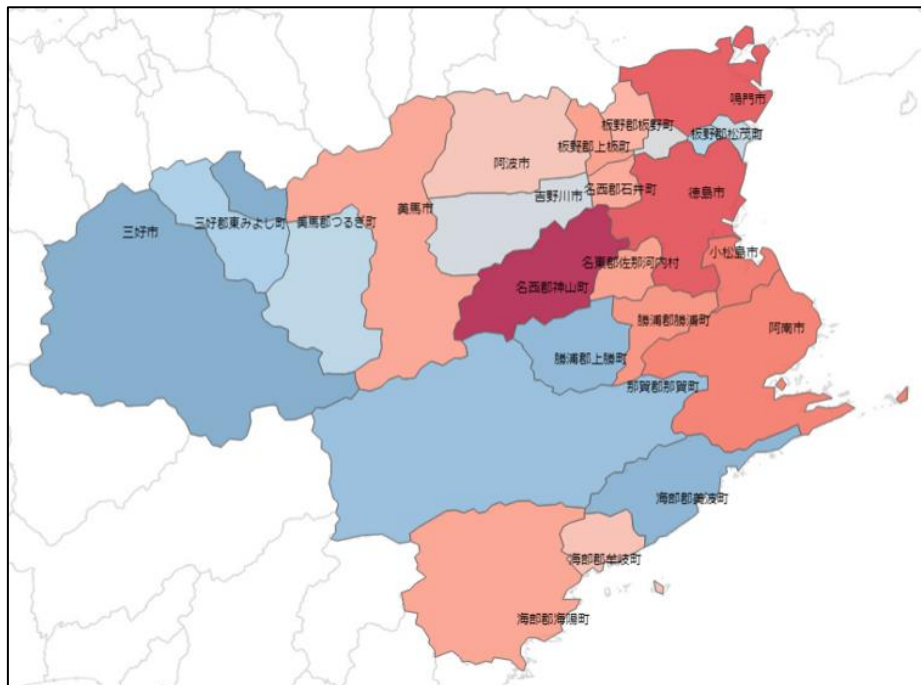
5. 市町村別地域差指数

【ポイント】

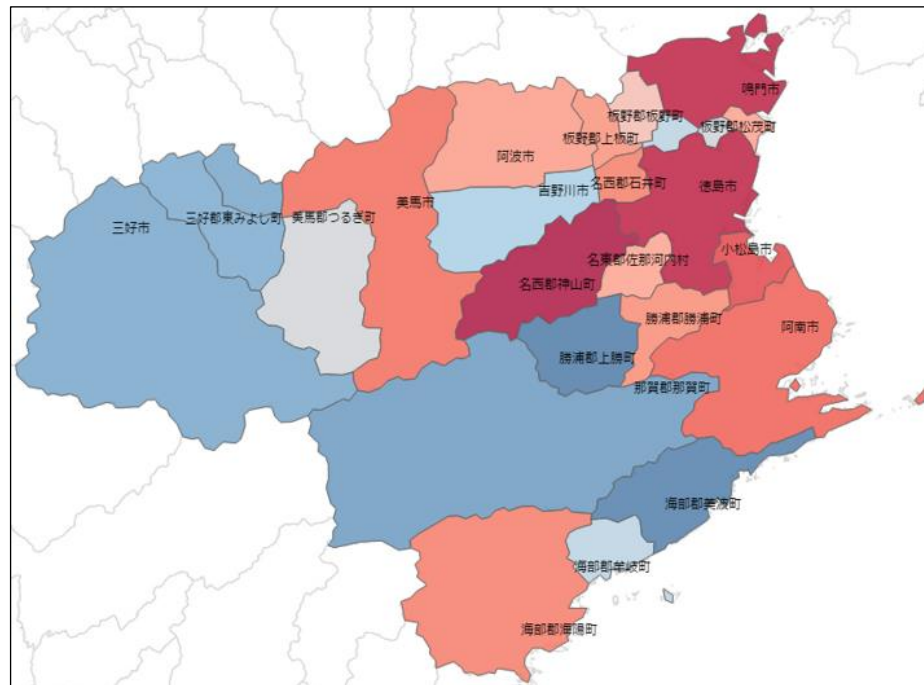
・2023年度と傾向は変わらない（東部医療圏が高い）が、地域差指数の幅が増加しており、徳島市や鳴門市が昨年より増加しているものと推測される。

1人当たり医療費の地域差指数（歯科）

（2024年）



（2023年）



5. 市町村別地域差指数

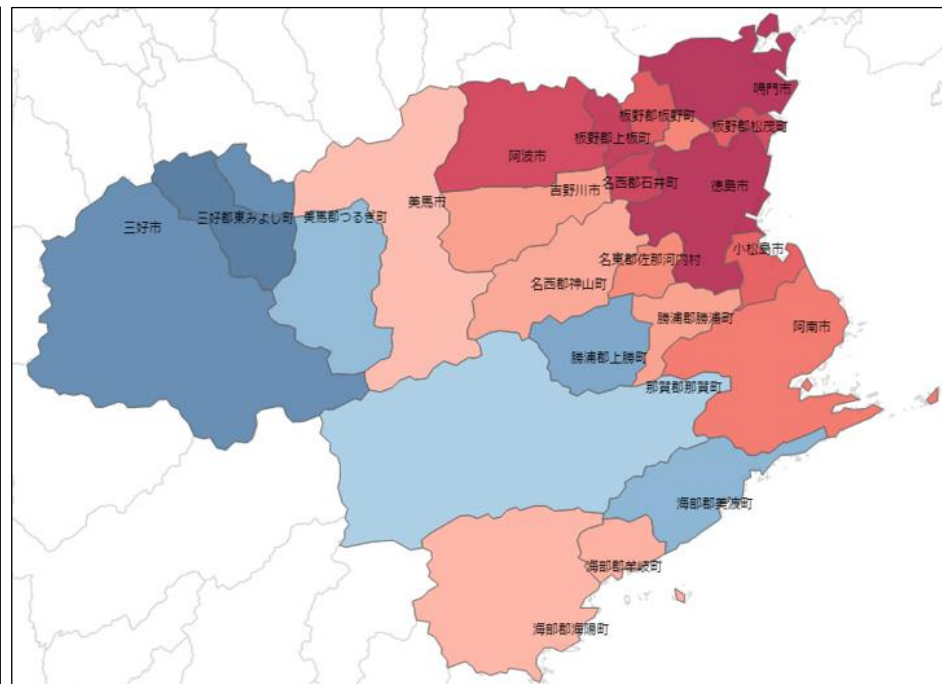
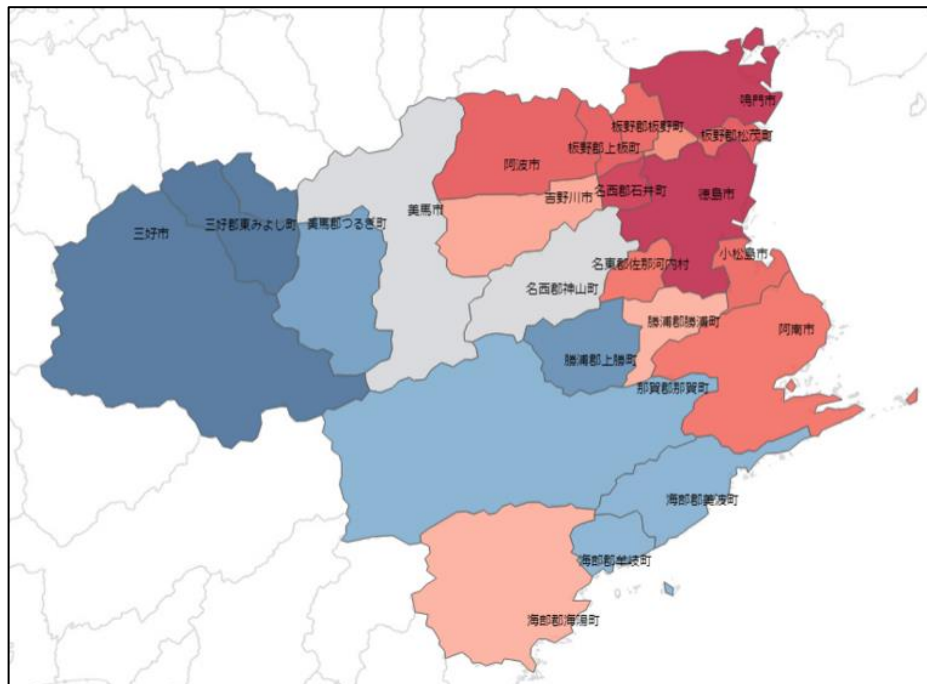
【ポイント】

- ・東部医療圏に集中している傾向は前年度と同一であるが若干下がっている。

受診率の地域差指数（総計）

（2024年）

（2023年）



5. 市町村別地域差指数

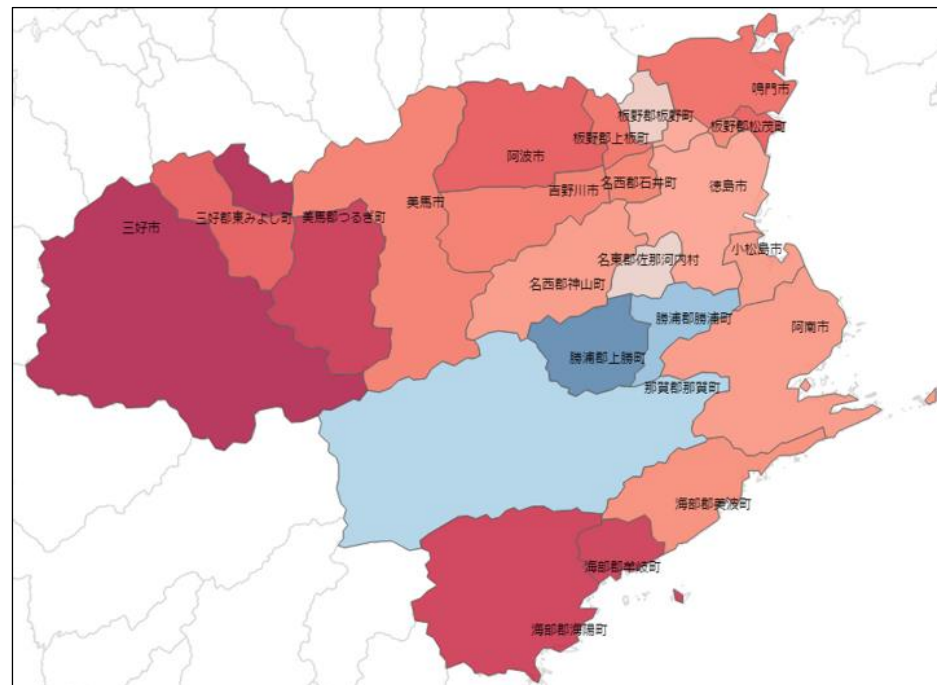
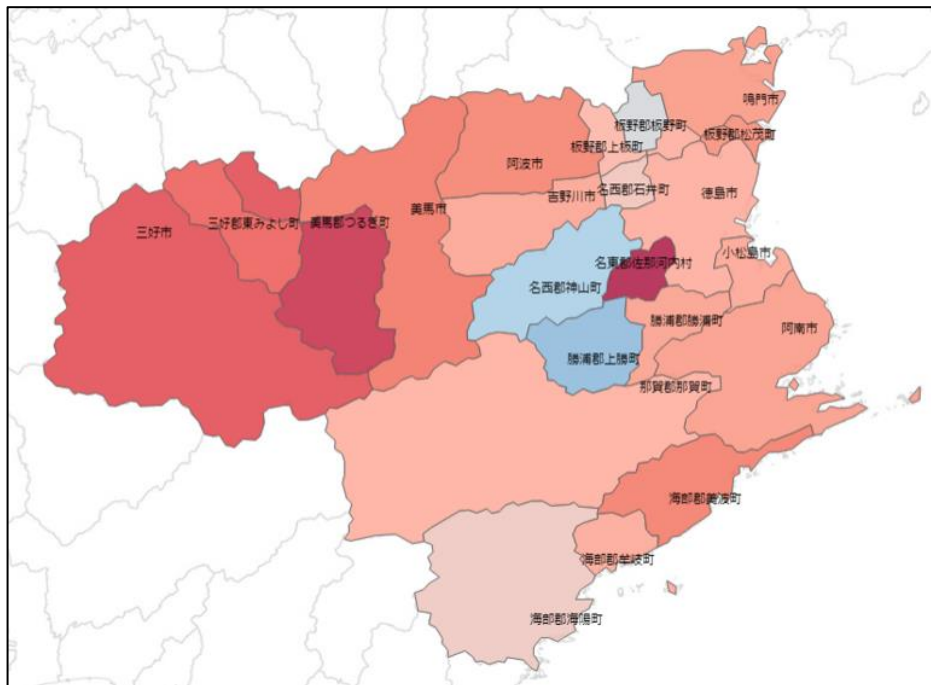
【ポイント】

- ・2023年同様、入院外と比較して西部医療圏が高い傾向にある。

受診率の地域差指数（入院）

（2024年）

（2023年）



5. 市町村別地域差指数

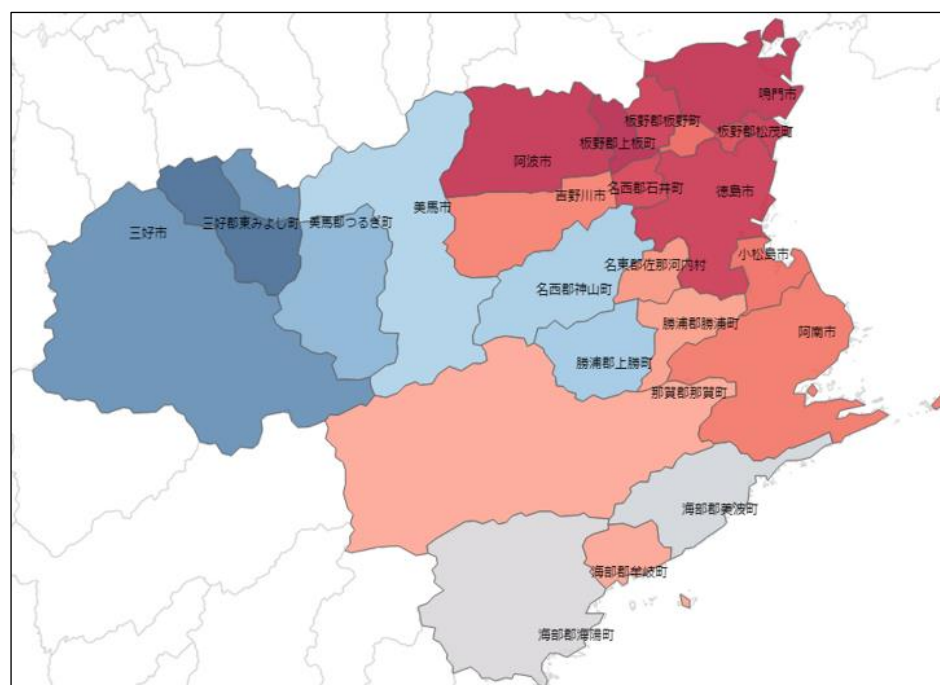
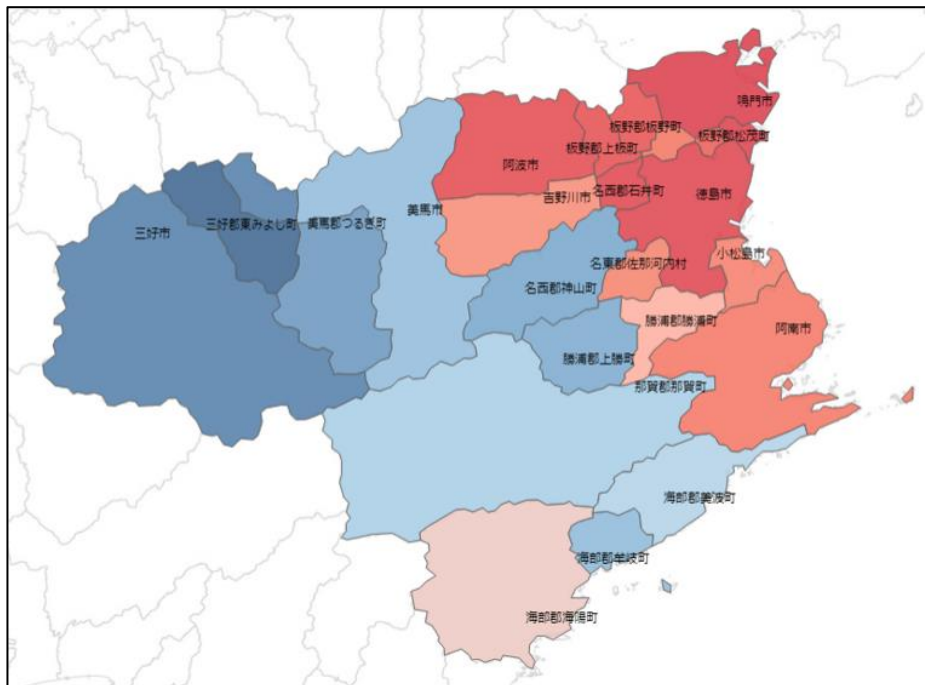
【ポイント】

- ・2023年同様、東部医療圏が高い傾向にある。

受診率の地域差指数（入院外）

（2024年）

（2023年）



5. 市町村別地域差指数

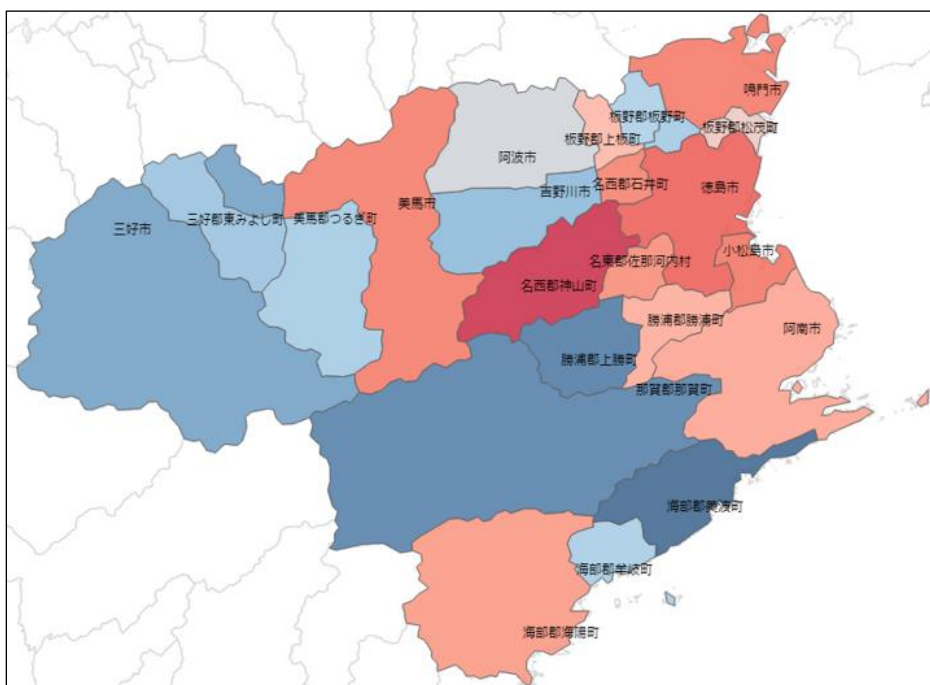
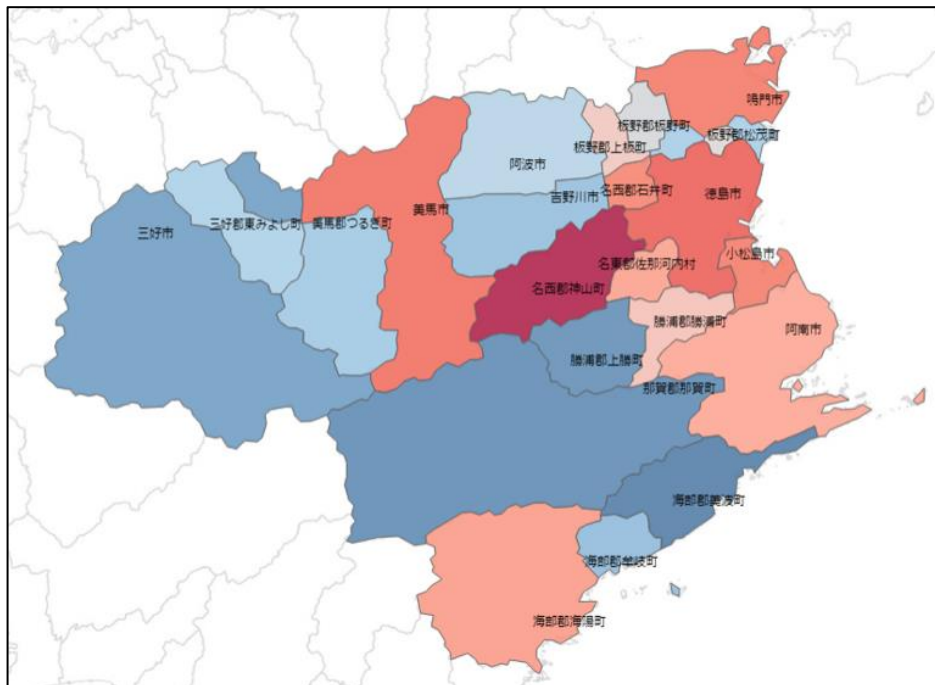
【ポイント】

- ・2023年度と明らかな地域差は出ていない。

受診率の地域差指数（歯科）

（2024年）

（2023年）



6. まとめ

1. 徳島支部の医療費

①徳島支部の医療費全般

- ・一人当たり医療費の総計の伸びは▲0.001（前年度1.03）であり微差であるが減少している。
- ・診療種別では「入院」が微増したが、それ以上に「入院外」が減少しており、その要因は「受診率」の減少である。

②疾病分類別

- ・入院は「新生物」が前年と比べ大きく寄与度が上昇している。「神経」も上昇傾向が続いており「筋骨格」「先天奇形」「精神」は過去からも高いまま推移している。
- ・入院外は「内分泌」「循環器」「精神」「消化器系」の寄与度が高く、過去からも高いまま推移している。

③時間外受診率

- ・「初診」「再診」とも2023年度より低くなった。同様な受診率で他支部に当てはめると、「初診」は岐阜支部、「再診」は神奈川支部。

2. 業態別の傾向

④業態別_疾病分類別

- ・入院は特に「33医療業・保健衛生」が突出して高く、ほか「3総合工事業」「8木製品・家具等製造業」「13機械器具製造業」「34社会保険・社会福祉・介護事業」の寄与度が高い。
- ・入院外も「33医療業・保健衛生」が突出しており、ほか「3総合工事業」「8木製品・家具等製造業」「13機械器具製造業」の寄与度が高い。

⑤健診結果の傾向

- ・「BMIリスク保有率」「HDLコレステロール」「運動習慣改善要素保有率」「睡眠で休養が取れていない者」の割合が高い。
- ・「メタボリックシンドロームリスク保有率」「喫煙者の割合」「過去喫煙者」の割合が低い。

⑥業態別_健診結果の傾向

- ・すべての項目において、「13機械器具製造業」「33医療業・保健衛生」の寄与度が高い。
- ・上記以外に、「8木製品・家具等製造業」や「34社会保険・社会福祉・介護事業」も全般的に高い。

6. まとめ

3. 地域の傾向

⑦一人当たり医療費

- ・全体は前年度と大きな変化なく、東部医療圏が比較的高い。ただ、市町村間の差は縮小傾向にある。
- ・入院は、西部医療圏が高い傾向にあるのは前年と変わらないが、市町村間の差は縮小傾向にある。
- ・入院外は、東部医療圏が高い傾向にあるのは前年と変わらないが、市町村間の差は拡大傾向にある。
- ・歯科は東部医療圏が高い傾向であり、前年度と変わらないが、地域差指数の幅が増加しており、徳島市や鳴門市が昨年より増加しているものと推測される。

⑧受診率

- ・全体は前年度と大きな変化なく東部医療圏に集中しているが、若干下がっている。
- ・入院は西部医療圏、入院外と歯科は東部医療圏が高い傾向にあるのも変わらない。

⑨時間外受診率

- ・「初診」「再診」とも東部医療圏が高い傾向は前年度と同一。

4. 総論

◎入院で寄与度が高い「神経」「精神」疾患は介入困難であるが、「新生物」には早期発見・早期治療等の介入の余地がある分野であり、がん検診受診啓発などの事業拡充をさせる必要性が高い。

◎入院外は従来から寄与度の高い「内分泌」「循環器系」に加えて「消化器系」が増加傾向にあり、引き続き生活習慣改善に関する各種事業を実施する必要性が高い。

◎時間外受診率は年々減少傾向にある。引き続き適正受診に向けた広報事業を行う必要がある。

◎業態別では「13機械器具製造業」「33医療業・保健衛生」「34社会保険・社会福祉・介護事業」が全般的に地域差指数が大きく、徳島県全体に占める被保険者数の構成割合が高いことから、関係団体・業界団体を巻き込んだ直接的な働きかけが必要である。

◎医療圏の特色として、医療機関数が集中している東部が地域差指数が高い。医療体制に起因するものと推測され、県内最大の人口を持つ徳島市との事業連携を模索する必要がある。

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

- (1) 「内分泌、栄養及び代謝疾患」の一人当たり医療費について、入院外が地域差指数プラス
疾病では「糖尿病＝代謝リスク」対策が必要
- (2) 「循環器系の疾患」の一人当たり医療費について、入院外が地域差指数プラス
疾病では「高血圧性疾患＝血圧リスク」対策が必要
- (3) 時間外受診について初診・再診とも地域差指数が高い

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

(1) 「内分泌、栄養及び代謝疾患」の一人当たり医療費について、入院外が地域差指数プラス疾病では「糖尿病＝代謝リスク」対策が必要

〈分析内容〉

- ・一人当たり医療費は、入院、入院外とも全国平均よりも高く、特に受診率の高さが要因となっている。
- ・特に入院外の糖尿病について地域差指数が高い傾向。
- ・入院外における業態別一人当たり医療費で寄与度の高い業態
総合工事業、医療業・保健衛生業、機械器具製造業、木製品・家具等製造業
- ・健診結果における業態別リスク保有率で代謝リスクの寄与度の高い業態
医療業・保健衛生業、機械器具製造業、木製品・家具等製造業、社会保険・社会福祉・介護事業

〈これまでの取組と評価〉

(取組)

- ・経年的に、特定保健指導及び健診結果において要治療・要精密検査の判定がある生活習慣病のリスク保有者について、保健指導や未治療者の医療機関受診勧奨（文書又は電話）を実施した。また、特定保健指導対象域の高血糖の方へリーフレット等を送付し、情報提供を実施した。
- ・昨年度より重点支援PJを開始し、35～39歳の被保険者への生活習慣改善の案内文書を送付しており、今後効果検証を行う。

(評価)

- ・特定保健指導及び未治療者の受診勧奨を進めてきた結果、被保険者の保健指導実施率は全国比較で上位を維持している。血糖リスクは全国平均を維持している。メタボリックシンドローム該当者減少率は全国1位と高く、健診受診者の健康意識は高いものとする。

特定保健指導実施率…

被保険者28.3%：15位（全国20.3%）

被扶養者13.5%：33位（全国17.1%）

血糖リスク保有率…

男性21.5%：25位（全国21.0%）

女性10.0%：25位（全国9.5%）

メタボ該当者減少率…

28.4%：1位（全国24.3%）

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

- (1) 「内分泌、栄養及び代謝疾患」の一人当たり医療費について、入院外が地域差指数プラス疾病では「糖尿病＝代謝リスク」対策が必要

〈今後の重点施策とその検証方法〉

(重点施策)

- ・特定保健指導・重症化予防につなげるための健診受診率の向上について、引き続き保険者努力重点支援PJで対象としている業態に対して、関係機関と連携し、集中的に取り組む。
- ・糖尿病発症を予防する観点から、寄与度の高い業態および若年層（30代）を中心に、生活習慣病予防健診結果から脂質、代謝リスクが高いグループを抽出し、食生活改善等の個別情報を送りヘルスリテラシー向上を目指す。
- ・特定保健指導の利用勧奨を複数回実施し、重症化を未然に防ぐ。
- ・関係団体、徳島県、労働局等と連携し、事業主自らリスク保有者へ早期受診などの勧奨を行っていくよう働きかける。

(検証方法)

- ・対象が所属する属性の健診・特定保健指導などの実施状況、医療費の経年変化などを分析し、PDCAを確実に回していく。

〈事業継続するうえでの改善点〉

- ・重点施策については、昨年度から実施している保険者努力重点支援PJ事業にて今年度も継続実施中。毎月200件前後を発送しており、リンクする形でのランディングページへのアクセスも一定数ある。今年度より健診結果からの効果検証などを行うこととしており、現在本部やPJ参加支部とともに検証方法等を議論しているところであるが、重症化予防の観点から若年層へのヘルスリテラシーの向上は必須と考えるので、継続して取り組んでいく。

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

(2) 「循環器系の疾患」の一人当たり医療費について、入院外が地域差指数プラス
疾病では「高血圧性疾患＝血圧リスク」対策が必要

〈分析内容〉

- ・一人当たり医療費は、入院、入院外とも全国平均よりも高く、特に受診率の高さが要因となっている。
- ・特に入院外の高血圧性疾患について地域差指数が高い傾向。
- ・業態別一人当たり医療費で寄与度の高い業態
総合工事業、医療業・保健衛生、機械器具製造業、木製品・家具等製造業
- ・健診結果における業態別リスク保有率で血圧リスクの寄与度の高い業態
医療業・保健衛生業、機械器具製造業、木製品・家具等製造業、社会保険・社会福祉・介護事業

〈これまでの取組と評価〉

(取組)

- ・経年的に、特定保健指導及び健診結果において要治療・要精密検査の判定がある生活習慣病のリスク保有者について、保健指導や未治療者への医療機関受診勧奨（文書又は電話）を実施した。また、特定保健指導対象域の高血圧の方へリーフレット等を送付し情報提供を実施した。
- ・昨年度より重点支援PJを開始し、35～39歳の被保険者への生活習慣改善の案内文書を送付しており、今後効果検証を行う。

(評価)

- ・特定保健指導及び未治療者の受診勧奨を進めてきた結果、全国と比較し血圧リスク保有率が低減となった。このことから、健診・保健指導等を受けていただいた方については、ある程度生活習慣改善や早期受診につながっていると推測される。また、メタボリックシンドローム該当者減少率は全国1位と高く、健診受診者の健康意識は高いものとする。

特定保健指導実施率…

被保険者28.3%：15位（全国20.3%）

被扶養者13.5%：33位（全国17.1%）

血圧リスク保有率…

男性53.1%：4位（全国55.3%）

女性36.7%：12位（全国37.1%）

メタボ該当者減少率…

28.4%：1位（全国24.3%）

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

(2) 「循環器系の疾患」の一人当たり医療費について、入院外が地域差指数プラス
疾病では「高血圧性疾患＝血圧リスク」対策が必要

〈今後の重点施策とその検証方法〉

(重点施策)

- ・特定保健指導・重症化予防につなげるための健診受診率の向上について、引き続き保険者努力重点支援PJで対象としている業態に対して、関係機関と連携し、集中的に取り組む。
- ・高血圧から生じる心疾患、脳血管障害を予防する観点から、寄与度の高い業態および若年層（30代）を中心に、生活習慣病予防健診結果から血圧リスクが高いグループを抽出し、食生活改善等の個別情報を送りヘルスリテラシー向上を目指す。
- ・特定保健指導の利用勧奨を複数回実施し、重症化を未然に防ぐ。
- ・関係団体、徳島県、労働局等と連携し、事業主自らリスク保有者へ早期受診などの勧奨を行っていくよう働きかける。

(検証方法)

- ・対象が所属する属性の健診・特定保健指導などの実施状況、医療費の経年変化などを分析し、PDCAを確実に回していく。

〈事業継続するうえでの改善点〉

- ・重点施策については、昨年度から実施している保険者努力重点支援PJ事業にて今年度も継続実施中。
毎月200件前後を発送しており、リンクする形でのランディングページへのアクセスも一定数ある。今年度より健診結果からの効果検証などを行うこととしており、現在本部やPJ参加支部とともに検証方法等を議論しているところであるが、重症化予防の観点から若年層へのヘルスリテラシーの向上は必須と考えるので、継続して取り組んでいく。

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

（３）時間外受診について初診・再診とも地域差指数が高い

〈分析内容〉

- ・初診、再診とも、中国・四国地方で唯一地域差指数が高くなっている。
- ・「＃8000」の相談件数は全国上位、「子どものいる世帯の共働き率」も高い。
- ・医療提供体制も充実しており、徳島の地域性が出ていると思われる。
- ・一人当たり医療費の受診率が入院、入院外、歯科とも地域差指数が高い。

〈これまでの取組と評価〉

（取組）

- ・保険者努力重点支援PJを通して、本部と連携し昨年度より「上手なおやこ医療のかかり方」と題し、10～12月を集中広報期間と定めテレビ・ラジオ・WEB広告・新聞折込チラシなどあらゆる広報媒体を用いて広報を実施した。
- ・上記広報の実施に際しては、徳島県、徳島市、医師会など15機関の後援をいただき、ポピュレーションアプローチを展開。
- ・今年度においても前年度実施結果から有効と判断した広報媒体に加え、テレビ番組出演や商業施設でのサンプリングなど前年度と違った広報手段を取り入れつつ広報を展開中。

（評価）

- ・広報実施に際し、前年度に引き続き幅広く後援をいただき、関係機関との連携強化につながった。
- ・職員の支部分析能力の向上、協会内外でのネットワークづくり、広報を主としたノウハウの積み重ねができています。
- ・効果検証を進めているが前年度と比較し、初診・再診とも地域差指数は縮まっているものの、加入者の減少による影響も考えられ引き続き受診動向にかかる各数値を注意深くみる必要がある。

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

【徳島支部の課題】

（３）時間外受診について初診・再診とも地域差指数が高い

〈今後の重点施策とその検証方法〉

（重点施策）

- ・今回のノウハウを活用し、次年度以降も継続して、上手な医療の周知をしていくと同時に、関係機関と連携したポピュレーションアプローチの展開していく。

（検証方法）

- ・時間外受診率の経年変化を分析し、PDCAを回していく。
- ・関係機関との連携事業の実施度。

〈事業継続するうえでの改善点〉

- ・広報について、どの広報が効果的だったのかの効果検証を踏まえ、次年度以降の広報計画を企画・実施する。
- ・効果検証を確実に行之、情報発信を行うと同時に事業の見直し、追加策などを進める。
- ・時間外の分析にとどまらず、ジェネリック医薬品使用割合など上手な医療のかかり方に関連する分析を進め、関係機関とも共有連携事業を拡大していく。
- ・広報事業を実施しているところであるが、関係団体等へ上手な医療のかかり方のさらなる周知を進めるための連携事業実施に向けてのアプローチ等を検討していく。

7. 現状評価・課題・重点施策シートについて

(参考：主な傷病名)

「内分泌、栄養及び代謝疾患」

「循環器系の疾患」

[IV] 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)
0401 甲状腺障害 (E00-E07) 甲状腺腫(結節性甲状腺腫、びまん性甲状腺腫)(※)、甲状腺中毒症、甲状腺機能亢進症、バセドウ病、 グレーブス病、急性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎、自己免疫性甲状腺炎、薬剤誘発性甲状腺炎、慢性甲状腺炎、橋本病 (※：甲状腺癌は0210へ)
0402 糖尿病 (E10-E14) 糖尿病、1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>、2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>、糖尿病性腎症、 糖尿病性白内障、その他糖尿病又は糖尿病性と記された疾病。 【備考：腎性糖尿病は0403へ、妊娠・分娩・産後における糖尿病は1504へ、新生児糖尿病は1602へ、耐糖能障害は1800へ】
0403 脂質異常症 (E78) 高脂血症、高コレステロール血症、リポタンパク質欠損症、低脂血症
0404 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患 (E15-E77, E79-E90) 低血糖症、高インスリン症、ゾリンジャー・エリソン症候群、副甲状腺<上皮小体>機能低下症、副甲状腺機能亢進症、 下垂体機能亢進症、末端肥大症、下垂体巨人症、高プロラクチン血症、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群<SIADH>、 下垂体機能低下症、下垂体性低身長、シーハン症候群、シモンズ病、尿崩症(※1)、クッシング病、クッシング症候群、 副腎器症候群、アルドステロン症(コン症候群)、アジソン病、ACTH<副腎皮質刺激ホルモン>の生産過剰、 卵巣機能障害(多のう胞性卵巣症候群、早発閉経)(※2)、精巣<睾丸>機能障害、思春期遅発症、思春期早発症、 多腺性機能障害、胸腺の疾患、その他の内分泌障害、カルチノイド症候群、低身長、体質性高身長、栄養失調症、栄養欠乏症、 肥満症、過栄養、ピクウィック症候群、ビタミン欠乏症(脚気、ペラグラ、壊血病、ビタミンA欠乏による夜盲、くる病)(※3) アミノ酸代謝障害(フェニルケトン尿症、チロシン血症、メープルシロップ<楓糖>尿症、シスチン尿症)、乳糖不耐症、 糖原病、腎性糖尿病、脂質蓄積障害、ポルフィリン代謝障害、ビリルビン代謝障害、ウィルソン病、ヘモクロマトーシス、 ビタミン抵抗性くる病(※3)、アミロイドーシス、脱水症、その他の体液・電解質及び酸塩基平衡障害 【備考：結核性アジソン病は0102へ】 (※1：腎性尿崩症は1404へ) (※2：閉経期及び女性更年期状態は1407へ) (※3：腎性くる病は1404へ)

[IX] 循環器系の疾患(I00-I99)
0901 高血圧性疾患 (I10-I15) 高血圧、本態性(原発性<一次性>)高血圧、腎硬化症、高血圧性腎症、動脈硬化性腎硬化症、高血圧性腎不全、 二次性<続発性>高血圧、腎血管性高血圧、高血圧性心疾患、高血圧性心腎疾患
0902 虚血性心疾患 (I20-I25) 狭心症、不安定狭心症、労作型狭心症、急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞、ドレッシング症候群、陳旧性心筋梗塞、 アテローム<粥状>硬化性心疾患、心塞、冠動脈瘤(※)、冠塞、冠動脈血栓症、冠動脈硬化症、冠不全 (※：先天性冠動脈瘤は1701へ)
0903 その他の心疾患 (I01-I02.0, I05-I09, I27, I30-I52) リウマチ性心疾患、急性リウマチ性心膜炎、急性リウマチ性心内膜炎、急性リウマチ性心筋炎、リウマチ性舞蹈病(シデナム舞踏病)、 僧帽弁狭窄症、リウマチ性僧帽弁閉鎖不全症、リウマチ性大動脈狭窄症、リウマチ性大動脈閉鎖不全症、原発性肺高血圧症、 三尖弁狭窄症、三尖弁閉鎖不全症、肺性心、急性心膜炎、感染性心膜炎、慢性収縮性心膜炎、大動脈弁狭窄症、心タンポナーデ、 大動脈弁閉鎖不全症、肺動脈弁狭窄症、肺動脈弁閉鎖不全症、急性心筋炎、心筋症、拡張型心筋症、閉塞性肥大型心筋症、 房室ブロック、左脚ブロック、右脚ブロック、心停止、発作性頻拍、上室性頻拍、心房細動、不整脈、期外収縮、洞不全症候群、 心不全、うつ血性心不全 【備考：心臓併発症の記載のないリウマチ熱は0912へ、リウマチ性肺疾患は1301へ】
0904 くも膜下出血 (I60, I69.0) くも膜下出血、脳動脈瘤出血、くも膜下出血の続発・後遺症
0905 脳内出血 (I61, I69.1) 脳内出血、脳内出血の続発・後遺症
0906 脳梗塞 (I63, I69.3) 脳梗塞、脳梗塞の続発・後遺症
0907 脳動脈硬化(症) (I67.2) 脳動脈のアテローム<粥状>硬化症、脳動脈硬化症
0908 その他の脳血管疾患 (I62, I64-I67, I67.3-I68, I69.2, I69.4-I69.8) 非外傷性硬膜下出血(※)、脳卒中、脳実質動脈(脳底動脈、頸動脈、椎骨動脈)の閉塞及び狭窄、脳動脈の閉塞及び狭窄、 進行性血管性白質脳症、高血圧性脳症、もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症> (※：外傷性硬膜下出血は1902へ)
0909 動脈硬化(症) (I70) アテローム<粥状>硬化症(大動脈、腎動脈、四肢の動脈) 【備考：冠動脈のアテロームは0902へ、肺動脈は0903へ、脳動脈は0907へ、腸間膜動脈は1113へ】
0911 低血圧(症) (I95) 低血圧症、特発性低血圧症、起立性低血圧症、起立性頻動脈障害 【備考：神経原性起立性低血圧症、シャイ・ドレーガー症候群は0805へ】
0912 その他の循環器系の疾患 (I00-I99の残り) リウマチ熱(心臓併発症の記載のないリウマチ熱)、リウマチ性舞蹈病(心臓併発症を伴わないリウマチ性舞蹈病)、 肺塞栓症(※1)、肺動脈瘤、大動脈瘤、解離性大動脈瘤、レイノー症候群、閉塞性血栓性血管炎[ビュルガー<バー>ジャー病]、 動脈塞栓症及び血栓症、レイノー症候群、血栓性静脈炎、門脈塞栓症、パッド・ギア症候群、游走性血栓性静脈炎、 下肢の静脈瘤(※2)、食道静脈瘤、非特異性リンパ節炎、リンパ管炎 (※1：妊娠、分娩及び産後における肺塞栓症は1504へ) (※2：妊娠、分娩及び産後の合併症は1504へ)